

KTK  
NO.121

# あらぐさ通信

後援会費郵便振替口座

01070-7-32145  
あらぐさ後援会

編集 あらぐさ後援会

編集協力 社会福祉法人あらぐさ福祉会

〒617-0813 京都府長岡京市井ノ内広海道42-3

TEL 075-953-9212 FAX 075-953-9215



3月末、還暦を迎える利用者さんの「還暦を祝う会」を行い、たくさんの人があ

かけつけてくれました！みんなから「ハッピーバースデー」「これからも笑顔で！」と

たくさんのメッセージをもらい、B グループからはプレゼントを渡しました。最後にみ

んなで歌って、たくさん笑って、にぎやかな会になりました。（坂本）

## 後援会総会第2部

「障害をもつ人たちと家族の災害対策、支援に学ぶ」より

6月7日（土）、あらぐさ後援会総会第2部では、能登支援に入ったあらぐさ職員から「能登支援報告」と、手をつなぐ親の会から「障害をもつ人たちと家族の災害対策について」の報告があり、災害時の対策について深く考えさせられました。



### 能登支援報告

障害福祉センターあらぐさ 森下純平

2024年1月1日に起きた能登半島地震は、甚大な被害をもたらしました。障害者事業所の利用者も職員も被災し避難所生活を余儀なくされました。国内の障害者団体で構成されている「JDF」（日本障害フォーラム）は、5月18日、「JDF能登半島地震支援センター」を開設。1週間を1クールとして、全国各地の障害者事業所から支援スタッフの派遣を続けています。あらぐさ福祉会の職員も、30クールに能登支援に入りました。その1週間の支援記録を掲載します。

12月8日

15時30分支援センター到着。和倉温泉の被災状況を確認してオリエンテーションを行う。その後は夕食、入浴で初日終了。

和倉温泉では、多くの旅館、ホテルが営業再開出来ない状況が続き、傾いた旅館も解体が進んでいない。和倉温泉の清掃などは、就労A型やB型の事業所などが、元々は仕事をしていたが、旅館が再開できず仕事が無くなってしまった。

車道は少しずつ修繕されているらしいが、歩道はそのまままだたり、いまだに手つかずの場所がいくつも見られた。JDFの派遣期間は年度末まで延長と聞いていたが、まだまだ再開が見られないで、9月末まで延長となったよう。豪雨災害から一年という所での延長である。今回の30クール目は20代の職員が二人も参加しており、上は60代まで幅広い層が、ボランティアに従事する。明日からの本格的な支援をしっかりとメンバーで連携をとって行いたいと思う。ちなみに京都からのボランティア派遣は全体でも少数だということをきょうされん塩田さんより指摘もいただいたので、これから積極的な派遣を京都支部として取り組む必要性を感じている。明日は能登地域の事業所を回り、あいさつと火曜日以降の支援の確認を行う。



12月9日

今日は能登の被災状況を車で回り、被災した事業所にも様子を伺いに行き、明日からの支援の確認も行った。輪島市、能登町、珠洲市を中心に回り、各地の被災状況を見たが、道中にいくつも壊れたままの建物や道路が目に入った。公費解体にしても家の中を片付けないといけない必要があり、解体が進んでいない要因にもなっている。

事業所への訪問では、各事業所の状況はそれぞれで、被災はしたが、今は通常通りに運営できており、地域にとって必要な事業所になっている所もある。地域の方に無料で温泉を提供したり、空き家を使い、地域の居場所にもなっている。

珠洲市の津波被害・輪島の倒壊ビル



事業所によっては人手不足が続いている、管理者以外、震災後に新たに入った職員で運営している所もある。それぞれの事業所によって必要な支援が違い、個別のニーズにこたえていく必要がある。明日からは個別のニーズについて対応していくことになる。

今日、最後に伺った珠洲市のすず椿では、利用者も職員も被災して、事前に想定していた方法では把握が出来なかつたということを聞く。偶然にも職員が避難先で見つけたということでしたが、利用者も職員も被災した中で利用者の安否確認をすることの難しさを感じた。

きょうされんからの物資を1月4日にAARJapanにすず椿へ届けてもらひすごく助かったという話を聞き、支援が活きたということは良かったと感じた。避難所に避難した人へは食事の提供はあるが、グループホームでは無かったので、支援物資はグループホームで使われた。1月～3月はこうした支援物資でまかなうことができたとのこと。明日からは個別のニーズにこたえていくために各自動していくことになるので、できることから進めていきたいと思う。



## 12月10日

今日はやなぎだハウス(就労B型)に通う利用者を仮設住宅まで迎えに行き、利用者と一緒に作業を行う。日中活動終了後、利用者を仮設住宅まで送り届けて、支援センターに戻り活動終了。やなぎだハウスは聴覚障害者の方が中心に通われているが、利用者が少ないので、他の障害種別の方も通われている様子(知的や発達障害や精神の方)。聴覚障害の方を中心に作業を行っているが、職員の指示がなくてもそれぞれで作業をされている。主な活動は100均で販売しているゴムの成形から袋詰め。自主製品として、草履作りもされていた。私は、コキアの木を乾燥させ、ホウキに加工したものの中で形の悪かった物をカットしていく作業を利用者と一緒にを行う。作業内容はそれぞれで難易度は違うが、袋のテープ張りはすぐにできるようなものではなく、経験によるものだと感じた。

聴覚障害の方とのコミュニケーションはどうなるのか不安はあったが、一緒に同行したボランティアが手話が少しでき、助けてもらいながらコミュニケーションはとれたのではないかと思う。また手話を知らない手振りでわかれることも多く、話をする事が出来た

聴覚の障害者の施設に、他の障害種別の人のがいる状況は大変ではないかと思うが、聴覚の方だけでは定員に満たないらしい。そんな中でもそれぞれの利用者がうまくコミュニケーションを取り、それぞれが順応していると感じた。職員体制は本来5人必要な所を3人体制で行っていて、ボランティアの応援が必要だ。

利用者と話すなかで、どこまで支援をしたら良いのかと考えることがあった。「相談していいか」と聞かれ、話を聞いたが一週間しかいない私が適切なアドバイスをするのは難しい。来週には居なくなる存在だ。本当に大事なのは継続して支援をすることだと、改めて思った。

しかし、私たちボランティアはイレギュラーな存在ではあるが、人が変わりながらも継続して支援していく必要性を感じる。今日相談を受けた利用者に具体的なアドバイスは出来なかったが、「話を聞いてもらいスッキリした」と言ってもらい、イレギュラーな存在であるが支援者がいるということがまず大事であるということを感じた。

## 12月11日

今日も昨日に引き続き、やなぎだハウスに通う利用者を自宅(仮設住宅)からやなぎだハウスに送迎。到着するも、職員全員が送迎に出ているため、施設が施錠されており入り口前で待機。10分ほどして、施設長が送迎から戻り中に入る。建物は元消防署を再利用しており、コンクリート打ちっぱなしのため建物内は冷えている。利用者は上着を着たまま作業。以前は床に板を貼っていたが、9月の洪水で流れてしまい、コンクリート打ちっぱなしの作業場で作業されている。

順次、利用者が来られ、あいさつ、検温、朝の会、体操をしてそれぞれ活動に入る。ボランティアも利用者と一緒に昨日と同じ活動に入る。10時半に別の利用者を病院まで送迎して、やなぎだハウスに戻り作業を再開。昼食休憩を挟み、午後も同様の作業を行い、14時半には終了片付け、掃除。本日でやなぎだハウスの活動終了のためあいさつを行う。帰りも利用者を自宅(仮設住宅)まで送迎。



支援終了のボランティアのおつかれさま会では、ボランティアメンバーから、支援先で職員さんに言われた言葉の報告があった。「毎週違う人が支援に来て何をしてもらおうか考えるが、ずっと支援が続くことは忘れられないと思うことができる」と言われ、支援に来て良かったと思えることができたと言われていた。

それぞれのスタッフは1週間の支援だけで終わって、何が出来たのかと悩むこともあると思うが、JDFの支援が続いているということは、能登のことを忘れないというメッセージを伝えることができている感じる。ボランティアを今までつないでくることが出来たことがとても重要である。



## 12月12日

今日は雪。利用者を自宅(仮設住宅)まで迎えに行き、病院まで車で送迎を行う。朝の段階では病院までの送迎後、他の利用者宅の片付けの予定だったが、本人の体調不良によりキャンセル。予定を変更して、通院する利用者の買い物の送迎と自宅までの送迎をさせていただくことになる。主に車内でいろいろとお話しをさせていただいたが、本当に支援を必要としていることが感じられた。JDFとして、ひとりひとりの困りごと、ニーズに対応して支援が組み立てられており、その力に頼ってくれる人がいることを知ることが出来た。

夕方の打ち合わせでは、新たに自宅の片付けを必要としている利用者がいることがわかった。支援を継続してきたことで、困りごとがあれば、JDFに頼めると地域の支援者が思ってくれていることを実感する。



## 12月13日

輪島の仮設住宅に住む利用者を迎えて行き、金沢の病院まで送迎を行う。病院までは1時間半の行程。病院では内視鏡検査を行い、その後自宅まで送迎する。検査には準備も含め待機時間は長く、夕方まで病院内で過ごす。

自宅から病院までは距離が長く自力で通院するのは難しそう。本人もほとんどのことは自立しているが検査前には10分ごとに下剤のようなものを飲む必要があり、支援する部分はある。病院での待機時間も長いので、支援の難しさを感じる。

今回も仮設住宅に住んでいる利用者の送迎を行う。多くの人が仮設住宅で過ごしているが、支援が行き届いていない現状がある。今すぐ支援を必要としている人の情報がJDFに届き、必要な支援を行うがまだ支援を必要としているかいると感じる。

まだ声を挙げられていない人や、声を拾えていない障害者の存在があるのでと感じる。何でもJDFがしてくれるということで助けられる人が出てきていると思うが、ボランティア支援が永遠に続けられるわけではないので、この先のことも考えていかないといけない。明日は支援センターの片付けを行い、京都に戻ります。



## 12月14日

最終日です。昨日の夕方はボランティアスタッフとAARJapanの人と一緒に夕食を食べた。最終日の恒例になっている石川の郷土料理の「とり野菜みそ鍋」を頂いた。今日は支援センターの片付けを行い、振り返りをして京都まで戻る行程です。

最終日でお世話になったボランティアと塩田スタッフマネージャーにお礼を伝え、あらぐさで利用者に書いてもらったメッセージをお渡しした。来週のクールで事業所に渡してもらう予定。メッセージと一緒に撮った写真データは、戻り次第きょうされん本部に送ることを確認。

初日と最終日に塩田スタッフマネージャーより同じ話ををしていただいたが、能登の支援が終わると輪島の

○○さんはどうしてるだろう？七尾の○○さんは元気かな？ということを言われるようになる。行くまでは能登半島に住む人はどうしてるだろう？と考えていたことが、帰ると具体的な名前と顔が浮かぶようになる。行くまでは能登半島がどんな所かわからていなかったが、これからは具体的にどんな人が住んでいるか想像することができる。能登のことを忘れないためにそこに住む人の具体的な姿を思い出すことができる。そうできることは大切なことであると感じる。

現地の皆さんには、1週間ボランティア支援を受け止めいただきありがとうございました。また支援に行けるように、体制などを組み立ててくれたあらぐさには感謝しています。帰ってから能登のことを語っていくことが、からの自分の仕事だと感じています。（森下）



← あらぐさからのメッセージ



2025年も継続して行っている能登半島地震支援には、全国各地から述べ300人以上の施設職員が支援に入りました。JDFでは、9月まで支援派遣を続ける予定です。

### JDF 発行 支援活動ニュース「やわやわと NO.46 4月 19日」より

「まさに花盛り。46クールの能登は桜が見頃を迎えるました。（略）今週も障害のある人々から公費解体前に家を片付けて欲しいと言う依頼が新しく入りました。また、深刻な人手不足に苦しむ事業所から、送迎だけでも手伝ってもらえると助かるのですが・・・というSOSも届いています。見事な桜に一息つきながら、厳しい現実は続きます。」

～誰ひとり取り残さないために、つながります～

### クイズ「どうやってつくってるの？」（あらぐさ通信120号掲載）

#### 正解発表！

沢山のご応募ありがとうございました。正解は以下の様になっています。応募総数は57通、全問正解者は80%でした。正解者の中から厳選なる抽選の結果、3月末までにご希望の賞品を発送しました。  
(事務局ー9面に続く)

**Q1. こたえ**  
正しい順を示したもののはどれか？

B ①→③→⑤→②→④

**Q2. こたえ**  
正しい順を示したもののはどれか？

C ①→②→⑤→④→③



**Q3. こたえ**  
正しい順を示したもののはどれか？

A ④→③→②→⑤→①

# 各グループからの報告



## 「年に1度の大イベント、お誕生日会」

### ケアホームいのどり

いのどりでは、一人一人の利用者さんのお誕生日会をしています。好きな果物やチョコレート、あんこ等、それぞれの好きなものを取り入れたスイーツでお祝いすることが多いです。

先日は奥山さんの還暦のお祝いということで、奥山さんが大好きなお寿司とケーキタワーで盛大にお祝いしました。

「生まれててくれて、ありがとう！」と、改めてお伝えできる日、大切にしているイベントです。

(三谷)



## 「ありがとうかい」 デイセンター2

デイセンター2は19人の利用者が通われている生活介護のグループです。作業活動として、染め、食品加工、ビーズといった製品を作り地域で販売をしたり、余暇活動としてエアロビクスやおやつ作りを楽しんでいます。

今回紹介するのは、3月に行われた「ありがとうかい」です。みんなで歌や踊りを披露したり、1年のがんばりを祝ってケーキ作りなどを楽しします。自治会を開いてみんなで発表内容やケーキの材料を決めます。司会や挨拶も自分たちで決めるので、とても気合いの入ったイベントで大賑わいです。

(鞍貫)



## 「みんなでお花見」 Aグループ

新年度が始まり、Aグループではあらぐさの桜の木の下でお花見をしました。

みんなで桜を見ながらお菓子を食べたり、ジュースを飲んでいます。きれいな桜を見て嬉しそうな笑顔を見せる利用者さん、お菓子やジュースに目を輝かせている利用者さん、楽器を演奏して楽しそうな利用者さんなど、それぞれの楽しみ方で、みんなでお花見をすることができました。(廣瀬)



## 「琵琶湖博物館に行ってきました！！」

期待を胸に出発！琵琶湖と人の歴史、生き物の移り変わり等が、色々な形で展示されていました。リアルな標本や実物資料など、興味深いものが沢山！興味のある展示をじっくり見たり、実際に触ってみたり、メンバーさんそれぞれの楽しみ方で、見学・体験する事ができました。その中で、「見て見て～」「〇〇さんもやってみ～」等、メンバーさん同士の交流もよく見られ、充実したおでかけになりました。（田口）



## 「ごろり、お花見✿」Cグループ

Cグループでは、4月に京大キャンパスに隣接する公園でお花見を楽しみました。

桜がちょうど満開でお花見日和となり、芝生の上にシートを敷いておやつとジュースで乾杯しました。

シートの上でごろんと横になって桜を見ながらのんびりと過ごす人や、ブランコをしたり、お散歩したりと、皆さんそれぞれ楽しい時間を過ごされました。（岩佐）



## 2025年度 あらぐさ後援会総会報告

2025年6月7日(土)13:15より、障害福祉センターあらぐさ1階ホールにて、あらぐさ後援会総会が開催されました。  
57名のご参加ありがとうございました。

## 2024年度事業報告・決算報告・監査報告

### ① 2024年度 事業報告

3つの専門部(事業部・広報部・組織部)を中心として、あらぐさ福祉会の事業への支援と、「誰もが安心して暮らし続けることができる地域づくり」を支援することを目的として、次の活動を開催しました。

#### 1. 交流企画：自主製品の製作過程を題材にしたクイズ「どうやってつくるの？」を企画

あらぐさ通信に掲載。たくさんの方々から回答や励ましのコメントを頂きました。

#### 2. 事業部活動

あらぐさ支援募金件数は246件、募金額は77万6800円。多くのご支援をいただき、あらぐさ福祉会へ施設整備のための寄付をいたしました。

#### 3. 広報部活動

「あらぐさ通信」を3回発行(No.118~120)。印刷や住所のラベル貼り、封入作業など、障害福祉センターあらぐさ利用者の皆さんに発送作業を担っていただいている。利用者さんの活動や地域生活の紹介、総会や法人からの報告作品の紹介(グループ別)、作品展の告知など掲載しました。

#### 4. 組織部活動

会員数は387団体個人、会費合計56万7000円でした。多くのみなさんに支えて頂きました。

### ② 2024年度あらぐさ後援会決算報告及び監査報告

自：2024年4月1日 至：2025年3月31日

収入	支出
前年度繰越金 163,744	あらぐさ通信経費 172,248
会費収入 567,000	事業費 262,425
事業収入	事務費 71,557
利子収入 46	予備費 0
	あらぐさ福祉会へ寄付 100,000
計 730,790	計 606,230

収支差額 124,560円は 2025年度に繰り越します。

あらぐさ福祉会への寄付金額 876,800円

内訳：後援会運営費より 100,000円

あらぐさ支援募金より 776,800円

2025年5月7日、監査の内藤敬子さん、垣内良美さんにより会計監査を実施。

適正に処理されていることが報告されました。

## 2025年度事業計画・予算案

### ① 2025年度 事業計画

あらぐさ後援会では、無認可共同作業所の立ち上げに込められた思いと、法人の理念の実現を支える為に、今年度も地域に発信していく役割の一翼を担っていきたいと考えています。

#### 1. 後援会イベント

##### 第8回「みんなおいでよーあらぐさひろば」を開催

日程 2025年11月8日(土)

午後1時～3時 障害福祉センターあらぐさ敷地内

地域の諸団体に参加を呼びかけ、共に楽しい「あらぐさひろば」をめざします。

#### 2. 事業部活動

##### (1) あらぐさ支援募金の取り組み

「くらしの場」づくりの施設整備を支援することを目的に、「あらぐさ支援募金」を訴えます。

あらぐさ支援募金1口 1,000円

##### (2) 後援会独自の資金づくりの取り組み

物品販売等に取り組み、地域に支援を発信します。

##### (3) きょうされんの活動を支援していきます。

#### 3. 広報部活動

「あらぐさ通信」の発行(年間3回)。後援会の活動とあらぐさの事業や実践を広く市民の方々に知っていただくための広報誌として発行します。

#### 4. 組織部活動

会員ならびに支援募金の協力者を合わせて、500名を目標にめざします。

### ② 2025年度 あらぐさ後援会 予算書

自：2025年4月1日 至：2026年3月31日

収入	支出
前年度繰越金 124,560	あらぐさ通信経費 200,000
会費収入 600,000	事業費 230,000
事業収入 30,000	事務費 100,000
	予備費 124,460
	あらぐさ福祉会へ寄付 100,000
計 754,560	計 754,560

### ③ 2025年度あらぐさ後援会 役員(敬称略)

会長：大橋 瑞己

副会長：今西さよ子

事務局長：増田 康夫

会計：安武 真理

役員：松村 誠・伊地知有華・西岡 伸也・西井美千代  
眞殿 尊子・三谷 文菜・坂本 靖子

会計監査：内藤 敬子・垣内 良美

## クイズ応募者からのコメントをご紹介します！(5面の続き)

クイズ『どうやってつくってるの？』に沢山のご応募とメッセージをお寄せいただきありがとうございました。

- 「ヤヨイさんの道のり」読ませて頂き、お母さんの気持ち・・ヤヨイさんの成長に拍手を送ります。
- 「ヤヨイさんの道のり」を読んで胸を打たれました。あらぐさ福祉会のますますの発展を祈っています。
- いつもあらぐさ通信ありがとうございます。利用者さんの背景やご両親の思いがよくわかります。
- 「ヤヨイさんの道のり」歴史を切り開いて来られたことを教えていただきました。どの写真も笑顔が素晴らしい。お母様も御身体を大切にしてくださいね。
- 写真を見ながら作業にかかわっている息子の話を聞き、クイズの答えを家族で見つけました。楽しかったです。製品の事もよくわかりメンバーさん達の頑張りに拍手です。そして支えて下さっているまわりの方々に感謝です。
- 来年はお天氣にも恵まれ感染症にピクピクせず「あらぐさひろば」を楽しく開催できますように。
- あらぐさ通信の写真がカラーになったり、サイズも大きくなりとても見やすくなりました。今回のクイズも作業工程を知るきっかけになりました。
- 毎号、皆様の記事を楽しみに読んでいます。日々職員スタッフの生き方や思いやりの言葉に励まされています。
- いつもあらぐさ通信を有り難うございます。11/9のきょうされん全国大会の参加、皆さんで楽しく参加された様子が表紙の写真から伝わってきます。おつかれさまでした。地域で暮らしながら外に目を向けていつも新しい風を取り入れている「あらぐさ」に元気をもらっています。共に手を取り合って地域で暮らすってすてきですね。
- 皆さんのがんばりが紙面にぎっしりです。
- あらぐさ通信、上質紙カラーでバージョンアップ！！読み易い。あらぐさで過ごす時間がみんなの宝物になりますように。雑草（あらぐさ）のようにたくましく！！
- あらぐささんのパウンドケーキが美味しい、楽しみにしています。物品販売、Tシャツ販売など、いつもご協力いただき本当にありがとうございます。
- 毎回心のこもった内容、今回もカラー！やよいさん、あらぐさが始まった頃からの人ですよね。成長し続けている姿に感動します。お母様が私の母と同じ年齢にも驚き、ここまでのお母さんの努力に拍手を送りたいです。すてきなオンリーワンの人生を。



## 2024年度会費・支援募金にご協力ありがとうございました。(2024年11月27日～2025年3月31日)

荒木満 荒木まち子 粟田士郎 粟田紀江 粟野賢 井古テル子 石井恵 五十棲福男 一箭浩志 射場隆 今井千代子 江川哲 大江恵子 大槻さつき 大橋生人 大橋祐子 大畠京子 岡よし子 岡崎伸宏 小谷勝利 勝良和子  
乙訓地区労働組合協議会 河合隆平 川口淳子 河村雅之 木村篤哉 後藤邦子 後藤真由美 近藤健二 坂本憲哉  
佐藤卓利 佐野顯治 四方政則 嶋本芳輝 嶋本美恵 濑川良介 専修院福本哲了 鷹野安子 田口芽生 武山彩子  
多田美智恵 田中皓大 田中洋子 谷口忠行 谷口奈緒子 辻野明子 有限会社長岡美装社 中川千津子 中路克介  
長島里香 中村時雄 西田浩子 西野由美子 野崎清子 濱川君代 林英夫 廣瀬愛 本田章子 増田尚 松田侑子  
ベーカリーセルフィーユ村上泰之 松田惠美子 松永里子 松村誠 三浦朱葉 水口秋子 三谷文菜 宮崎俊一  
森清 安田耕治 山中啓三 山本朝栄 吉永和子 吉永雄司 吉永静香 米本久子 幸前雅子 岩佐瑞紀 平野美和  
はれの樹八 シャルニーズ デンタルクリニッカ大橋瑞己 西岡伸也 匿名希望 10名 ※払込書にお名前の記載もれ 1名 (敬称略)

2025年度会費納入・支援募金にご支援よろしくお願いいたします。

# 2026年度 正規職員募集のお知らせ 社会福祉法人あらぐさ福祉会

2026年4月1日採用の職員の募集を次の様に行います。

## 1 募集職種・人員等

- |                        |    |           |
|------------------------|----|-----------|
| ① 生活支援員（障害福祉センター・日中活動） | 1名 | （新卒・正規職員） |
| ② 生活支援員（グループホーム・暮らしの場） | 1名 | （新卒・正規職員） |
| ③ ヘルパー（サポートセンター・居宅介護等） | 1名 | （既卒・正規職員） |

### 応募資格

- ① 社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士、公認心理師、介護職員初任者研修(旧ホームヘルパー2級)の資格所持が望ましい。
- ② 普通自動車免許を保有していることが望ましい。

## 2 応募方法と受付期間

- (1) QRコードで応募 応募用 QR コード⇒

  - ① 履歴書（市販又は大学様式、写真貼付）は当日持参

- (2) 郵送で応募（ホームページをご覧ください。）
- (3) 受付期間 2025年6月2日（月）～2025年7月4日（金）



## 3 採用試験実施日時及び場所

- (1) 日 程 第1回 2025年7月6日（日）午前10時～12時
- (2) 内 容 作文・面接を実施。（筆記用具を持参・作文は法人パソコン使用可）
- (3) 場 所 長岡京市井ノ内広海道42-3 障害福祉センターあらぐさ
- (4) 採否通知 2025年7月下旬頃 \*合格者には電話にて連絡後、採用通知を送付します

（第2回実施日、第3回実施日は今後、随時ホームページに掲載しますので、ご確認ください）

## 5 その他

ホームページ QR コードより「職員募集」をご覧下さい



お問い合わせ・施設見学を希望される方は、次の QR コードでお申し込み下さい。



問い合わせ 電話 080-2459-0146 (担当: 小川)

ホームページから

## 先輩職員たちの日々・メッセージより

○障害福祉の仕事は大変そうな仕事だと思われるかも知れません。けれども、障害のある方と一緒に活動してみると、どの方も個性的で魅力的な人ばかり。私自身もありのままの自分でいいんだと思えるようになりました。

○真剣に取り組む利用者さんの様子に心を打たれます。一緒に仕事をするだけでなく、利用者さんの悩みにも向き合い、日々奮闘中です！一度、あらぐさを見に来てください。

